

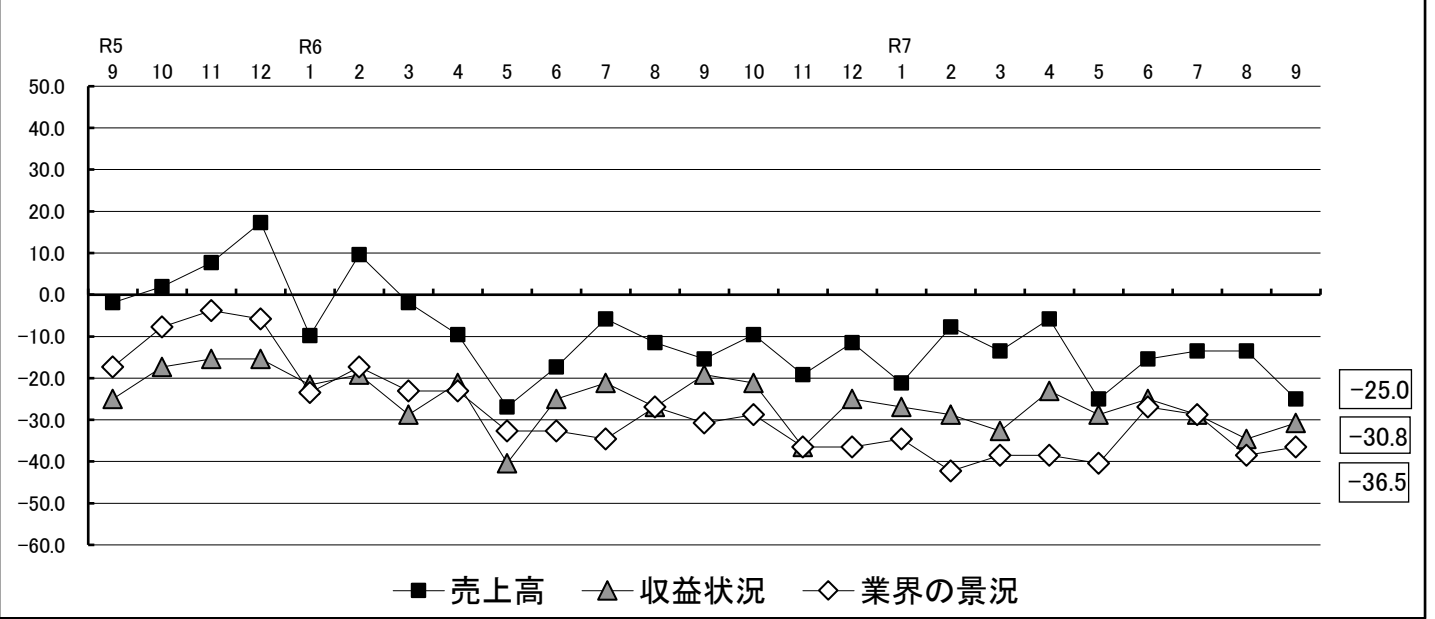
中小企業団体情報連絡員報告結果(令和7年9月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員（中小企業組合（協同組合、商工組合等）の役職員 5 2 名に委嘱）による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 9 月の前年同月比 DI 値は、前月と比べて、主要 3 指標は「売上高」が低下したが、「収益状況」と「業界の景況」は増加した。その他の指標では、「販売価格」と「取引条件」の 2 指標が上昇したが、「在庫数量」「設備操業度」「雇用人員」の 3 指標で低下し、「資金繰り」においては変化が見られなかった。
- 後継者及び人材不足の問題に加え、10 月からの最低賃金の引き上げによる人件費上昇に伴う経営に対する不安の声が多く寄せられた。
- 原材料等の価格上昇による価格転嫁が難しい状況が続いており、多くの業種で収益を圧迫している。値上げをしたことで需要の落ち込みに繋がる場合もあり、今後の見通しは依然として不透明な状況である。

県内主要 3 指標の推移 (前年同月比 DI 値)



主要3項目	県内		全国	
	DI 値	前月比	DI 値	前月比
売上高	-25.0	-11.5	-10.7	5.7
収益状況	-30.8	3.8	-26.7	1.2
業界の景況	-36.5	1.9	-28.4	1.3

売上高

当月の県内売上高 DI 値は、前月より 11.5 ポイント低下し-25.0 ポイントになった。全国においては、5.7 ポイント上昇し、-10.7 ポイントとなった。

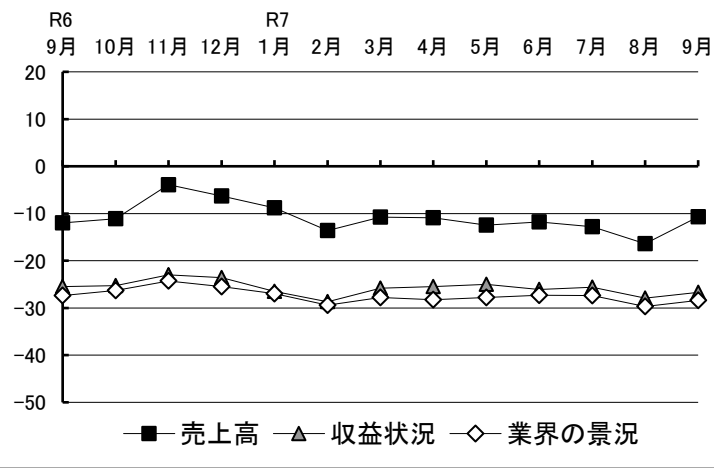
収益状況

当月の県内収益状況 DI 値は、前月より 3.8 ポイント上昇し、-30.8 ポイントとなった。全国においては、前月より 1.2 ポイント上昇し、-26.7 ポイントとなった。

業界の景況

当月の県内業界の景況 DI 値は、前月より 1.9 ポイント上昇し、-36.5 ポイントとなった。全国においては、前月より 1.3 ポイント上昇し、-28.4 ポイントとなった。

全国集計結果の推移



-概 況-

9月の前年同月比 DI 値は図表2のとおり前月と比べ4指標が上昇し、4指標が低下した。主要3指標では「売上高」が11.5ポイント低下した一方、「収益状況」で3.8ポイント、「業界の景況」は1.9ポイントの上昇となった。

製造業のうち「木材・木製品製造業」は、住宅及び梱包向け共に売上が落ち込んだ。地場工務店でもリフォーム需要により繋いでいる業者が増えた影響で、新築向けの構造材の荷動きは落ち込んでいる。また、人手不足により梱包向けの受注も制限せざるを得ない状況である。「陶磁器製造業」においては、粘土の売上が伸びた。要因としては、11月に陶器市が控えていることもあるが、他産地の値上げが影響している。9月に入ってから来客数も増加し、販売店や窯元には活気が見られる。

非製造業のうち「食肉小売業」では、10月から食品価格の値上がりが多く売価の見直しを検討しているが、消費者は節約志向を強めており、より安価な商品へと移行する動きが見られ対応に苦慮している。「建設業」では、工事受注が前年同月に比べ僅かに上昇傾向にあるものの、仕入価格の上昇により収益面は不変のままである。一方で、後継者不足の問題は依然として変わらない状況である。

当月のDI値は、「売上高」は大きく低下したものの、「収益状況」と「業界の景況」では上昇が見られた。後継者及び人材不足の問題に加え、10月からの最低賃金の引き上げによる人件費の上昇に伴い、経営に対する不安の声が多く寄せられた。さらに、原材料等の価格上昇に対する価格転嫁が難しい状況が続いており、今後の見通しは不透明な状況である。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	-75.0	-50.0	50.0	-25.0	-25.0	-50.0	-25.0	0.0	-50.0
繊維・同製品	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-25.0
木材・木製品	-75.0	-25.0	-25.0	-25.0	-75.0	0.0	-25.0	-25.0	-75.0
印刷	0.0	0.0	0.0	0.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0
窯業・土石	-25.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	-50.0	0.0	0.0
鉄鋼・金属	-100.0	-25.0	0.0	-50.0	-50.0	-25.0	-25.0	-25.0	-50.0
一般機器	25.0	50.0	50.0	-25.0	0.0	0.0	0.0	-25.0	-50.0
製造業	-40.0	-8.0	24.0	-20.0	-28.0	-16.0	-24.0	-16.0	-44.0
卸売業	-33.3	0.0	0.0	0.0	-33.3	-33.3		-33.3	-33.3
小売業	-28.6	-14.3	28.6	-28.6	-28.6	-14.3		0.0	-57.1
サービス業	0.0		50.0	-33.3	-50.0	-33.3		0.0	-33.3
建設業	0.0		20.0	-40.0	-40.0	-20.0		-40.0	0.0
運輸業	0.0		0.0	0.0	-25.0	-25.0		0.0	-25.0
その他	0.0		50.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	-11.1	-10.0	25.9	-22.2	-33.3	-22.2		-11.1	-29.6
全体	-25.0	-8.6	25.0	-21.2	-30.8	-19.2	-24.0	-13.5	-36.5

図表2 【指標別DI値の推移】

	6年 9月	10月	11月	12月	7年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	前月比
売上高	-15.4	-9.6	-19.2	-11.5	-21.2	-7.7	-13.5	-5.8	-25.0	-15.4	-13.5	-13.5	-25.0	-11.5
在庫数量	0.0	-2.9	-2.9	-5.7	-14.3	-2.9	-2.9	-2.9	-11.4	0.0	-2.9	-5.7	-8.6	-2.9
販売価格	26.9	17.3	26.9	15.4	19.2	17.3	30.8	23.1	30.8	25.0	28.8	19.2	25.0	5.8
取引条件	-13.5	-9.6	-5.8	-9.6	-11.5	-17.3	-15.4	-11.5	-21.2	-23.1	-17.3	-25.0	-21.2	3.8
収益状況	-19.2	-21.2	-36.5	-25.0	-26.9	-28.8	-32.7	-23.1	-28.8	-25.0	-28.8	-34.6	-30.8	3.8
資金繰り	-19.2	-21.2	-25.0	-19.2	-11.5	-15.4	-15.4	-15.4	-21.2	-13.5	-13.5	-19.2	-19.2	0.0
設備操業度	-16.0	-8.0	-20.0	-16.0	-4.0	-12.0	-16.0	-20.0	-24.0	-12.0	-20.0	-16.0	-24.0	-8.0
雇用人員	-5.8	-7.7	-11.5	-9.6	-7.7	-1.9	-11.5	-1.9	-5.8	-7.7	-5.8	-9.6	-13.5	-3.8
業界の景況	-30.8	-28.8	-36.5	-36.5	-34.6	-42.3	-38.5	-38.5	-40.4	-26.9	-28.8	-38.5	-36.5	1.9

特記事項

情報連絡員報告（令和7年9月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 （産業分類細分類相当）	組合等及び組合員の業況等 （景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	和洋菓子製造業	9月も暑さが続き、業界的には厳しい状況である。相変わらず原材料等の値上げにより価格への転嫁が難しい。又、10月からの最低賃金上昇による対応も大変である。
	めん類製造業	相変わらず、得意先の後継者難と自社の人手不足が問題となっている。得意先の飲食店の店主の高齢化が進み、子供がいても後を継がないため廃業を検討している。又、自社の社員が退職し、求人を出してもなかなか採用に繋がらない。やむなく機械化及び省力化を進めたところ、何とかうまく行った例もあり、かえって収益の好転に繋がったとの報告もあった。インフレが進み原材料の値上がりに伴い、飲食店でメニューの値上げをしたお店は、売上が減少し厳しい経営が続いている。県内のそばの原料となるそば栽培については、後継者不足で安定供給及び仕入に不安がある。そば栽培の担い手充足の為、若い人材の募集策及び一次産業の魅力アップ策に期待の声が上がっている。鹿沼市では、イチゴ栽培をしたい若者を都会から募り定住と営農に成功している。地球温暖化対策も含め苦慮している。一部良い情報もあり、茂木の道の駅が、集客が好調で「ゆずラーメン」が売れている。又、ツインリンクもてぎのイベントが盛況で、仲間の飲食店が好調であった。
繊維工業	縫製業	年間継続商品の受注数量の減少により、売上が予定売上高より減少したが、昨年同月と同等であった。しかし、客先を他社含め生製品の確保に非常に苦労している状況は変わらない。業界全体の悪化により、ますます先行きが不透明であり、厳しさが増す事は避けられない。10月1日より最低賃金が上がる。賃金アップは良い事だが、中小企業にとって厳しい先行きになると思う。
	絹・レース・繊維粗製品製造業	直近2ヶ月ほど同じ状況だが、国内アパレルに関しては引き続き厳しい販売状況。販売価格を抑えるため、レースやボタン等の服飾資材を使う企画はなくなり、ファスナー等が少し安定して動いている様子。政治も不安定な局面となっているが、どのような経済対策が実施されるのか注視していきたい。
木材・木製品	一般製材業	非住宅の需要は上昇傾向にあり、当該物件に注力していきたい。8月のプレカット工場の稼働状況は前年同月比7～8割と低調な状況である。
	家具・建具製造業	住宅関連業種は着工戸数の減少により、売上高・在庫数量・収益状況及び景況感の悪化を強めている。
	木材・木製品製造業	住宅及び梱包向け共に売上が落ち込んでいる。地場工務店はリフォームで繋いでいる業者も増えている印象。よって構造材の荷動きが特に落ち込んでいる。梱包向けの仕事は出ているが人手不足により、受注を制限せざるを得ない状況になってきている。
印刷	印刷業	引き続き需要低迷のため、用紙価格の再値上げの気配及び人件費の高騰による利益確保に苦労している。各社それぞれ関連需要開拓などにより増収を図っている。
窯業・土石製品	石灰製造業	鉄鋼向けは、昨年比で増加となった。建材関係は昨年比で減少し、肥料関係は前年並みとなった。全体では、昨年比で減少となった。
	陶磁器・同関連製品製造業	粘土の売上が伸びている。11月の陶器市も控えているが他産地の値上げが原因と考えられる。9月に入りお客の入りが良く、販売店や窯元に活気が出ている。先日、恵比寿ガーデンプレイスで陶器市を開催。50の窯元が出店し、売上もとても良かった。
鉄鋼・金属	金属製品製造業	自動車向け金型関連は全く話題が無く最悪の状況にある。自動車部品は先月に続き減産傾向にあり見通しも不透明である（トランプ関税や総裁選挙の影響なのか、サプライチェーンは不安しかない）。残業に至る仕事量がなく、手取り額も下がってしまう現実がある。工業団地内の企業（異業種）全般が景気悪化と判断している。市内の飲食店では値上げをしたことで客数が減少したと嘆く声がある。市内の夜は、閑散としており商店街に寂しさを感じられる。
	金属製品製造業	売上高が減少した。要因としては、自動車部品（日産自動車）の減少が一番大きかった。
一般機器	一般機械器具製造業	9月は全体として、各項目とも前月と比べ「不変」とする回答が多かった。売上項目のみ増加が多かったものの、ほぼ同数で減少との回答もあり、業種間でも差が見られた。10月からの最低賃金については、特に影響を受けていない組合員と人件費による経営圧迫とを感じる組合員との意見が分かれたが、今後も価格転嫁が出来ないと厳しい。また、今後も予想される最低賃金の上昇については、「どちらかといえば賛成」との声が多かった。行政や団体への支援ニーズ

		については、人材確保及び育成支援や設備投資及び補助金支援のニーズが多く、株式相場の過熱などで期待が高まる中、政府の中小企業に対する経済政策に期待したい。
	一般機械器具製造業	理由は不明だが受注量が増加している。その結果資金繰りは好転し、現在の状況は順調に進んでいる。
卸売業	化粧品卸売業	値上げが一巡したのか、最近は仕入価格の上昇が無くなった。
	各種商品卸売業	すべての項目で「不変」とする企業が多く、業況等は前年同期に比べ微増とするも「不変」とする企業が多い。
	各種商品卸売業	業種及び取扱商品によって流通量の増減に差がある。燃料価格は、高止まりしており物価高騰と相まって収益を圧迫している。従業員の人員確保が難しい（募集をかけても集まりにくい）。賃金アップについても対応していく中で、原資の確保の他、労働時間問題についても検討していく必要があり課題は多い。
小売業	食肉小売業	暑さも少し弱まり、行楽地への人の動きが増加した。10月からは食品価格の値上がりが多く、売価の見直しを考えている。消費者は自己防衛のため、より安価な商品へと移行している。
	その他の小売業	エネルギー関係は、数か月前の実績を基に販売価格を決定することが多く、販売価格決定後に仕入価格が高騰すると、収益が減少するなど不安要素が多い。現在は高止まりではあるものの、比較的変動の少ない状況である。国際情勢を鑑み、一部数値が急落しているのもあるので、注視しながら慎重に販売価格の決定をしていく必要がある。また、10月1日からの最低賃金改定によりパートタイマーへの原資確保が大変であり、これをクリアするためには労働条件及び契約体系の見直しや職員（調査員）の確保など、小規模事業者には問題点が多い。様々な支援金制度はありがたいが、その条件をクリアすることについても考える必要がある。
	各種商品小売業	9月の小売業は改善傾向に持ち直しているが服飾品では猛暑により客足は減少している。一方で秋物の動きが悪く苦戦している。その他の化粧品関係や薬関係も季節需要で落ち込んでいる。百貨店ではインバウンド需要に陰りが見られ、地方の小売業は苦戦している。9月期は全体的に下方傾向であった。
	各種商品小売業	9月のアパレル売上は引き続き低迷。例年なら秋物が動く時期だが、残暑の影響でほとんど売れず、厳しい状況が続いた。こうした動きの鈍さは年々顕著になっており、天候だけでなく消費者の購買意欲低下や業界全体の市場縮小も影響していると考えられる。
	花・植木小売業	異常気象により開花の時期のずれや生育の異常などの影響により、良品を確保することがやや難しい。小売に影響が出ている。
サービス業	理容業	組合員の収益アップを目指し、女性客のニーズに応える技術力の向上を考え「レディースシェービング」「レディススタイル」に特化した自洗機型セミナーを開催した。講師による丁寧な解説と実習を通じて、参加者は技術を磨きながら収益アップへのヒントを得ることができた。
	自動車整備業	整備台数の減少により売上高が減少した。人件費等が増加したため収益は悪化した。
	旅館・ホテル	9月宿泊も高稼働だった。宴会は、アメリカとの関税問題への懸念や物価高がホテルでの宴会によくない影響を与えており、非常に利用状況が悪かった。飲食店では、物価高と関税問題による利用控えの影響が飲食店には出ているように感じる。原材料の高騰による影響が非常に大きい。
	廃棄物処理業	全国環境連全国大会は令和9年10月22日開催予定である（栃木県にて開催予定）。11条水質検査料が値上げされるため、その他水質検査B0D等の値上げを検討している。
	給食センター	新米が出る時期であるが、またお米の値上げの申請がきた。そのため、価格がなかなか下らない。
建設業	職別工事業	工事受注は前年同月に比べ僅かに上昇傾向にあるものの、収益面では仕入価格の上昇により不変である。相変わらず後継者不足は変わらない状況にある。
運輸業	貨物自動車運送業	一般貨物では輸送量が減少する一方、宅配貨物や特積み貨物は改善傾向にある。未だに燃料の高止まりが続いており、輸送原価の上昇分を適切に料金に転嫁できない。自動車関連部品等の生産工場が多い地域でもあり、関税措置の影響が懸念される。

	貨物軽自動車運送業	シルバーウィークの影響を受けることなく、９月が決算月の荷主も多数あったため、月を通して配車が難しい日もあった。製造業関係の依頼が多く、全域の県の工業団地から依頼があったため、県内の組合員も全体的に忙しい月となった。
	一般旅客自動車運送業	タクシー業界では９月の夜間における売上は例年伸び悩む月である。お盆過ぎから年末に向かう期間でお酒を伴う行事が少ないことが原因と考える。そんな中、今年は気温が全体的に高く天候も良かったせいか夕方からの駅構内の乗客数や夜間も飲食街に人出が感じられた。アプリ配車（TAXI GO や Uber）の定着もありこれらは今後益々増えるだろう。一方、１回当たりの利用料金は近距離中心で、中距離及び長距離の利用減少を感じる。若干の料金改正が予定されている中で、配車サービスの利便性や乗車時の満足度及び決済方法の多様化などにより利用客に支持される業界を目指したい。
その他の非製造業	大谷石採取業	業界としては、一部の企業が売上アップとなったものの、平均的に不変である。テレビで紹介されたため、観光客は多い状況である。